

このリストは、図書館の職員が、5・6年生のみなさんに
読んでほしい本を選んだものです。

品川図書館 北品川2-3-2-3 ☎3471-4667

二葉図書館 二葉1-4-2-5 ☎3782-2036

荏原図書館 中延1-9-1-5 ☎3784-2557

南大井図書館 南大井3-7-1-3 ☎3761-6780

源氏前図書館 中延4-1-4-1-7 ☎3781-6273

ゆたか図書館 豊町1-1-7-7 ☎3785-6677

大井図書館 大井5-1-9-1-4 ☎3777-7151

五反田図書館 西五反田6-5-1 ☎3492-2131

大崎図書館 大崎2-4-8 ☎3495-0660

八潮図書館 八潮5-1-0-2-7 ☎3799-1414

休館日、開館時間などは、各図書館におたずねください。

このリストの表紙絵使用は、各出版社の許諾を得ています。

2013.10 発行

よんでみたいな！

5・6年生



『大地のランナー 自由へのマラソン』
ジェイムズ・リオーダン 作
原田 勝 訳
鈴木出版

品川区立図書館

『かかしのトーマス』

オトフリート・プロイスラー 作
ヘルベルト・ホルツィング 絵 吉田 孝夫 訳
さ・え・ら書房



ドイツのある村で、キャベツ畑にかかしのトーマスは立てられた。

トーマスは、鳥や動物や人間の言葉がわかり、色々なことを知る。キャベツ畑を自分の王国と思い、守るが、お月さまと話すうちにだんだん広い世界に旅立ちたいと思うようになる。

そしてキャベツの収穫の時がきて・・・。

『花実の咲くまで』

堀口 順子 作 みずうち さとみ 絵
小峰書店



新太郎のおじいちゃんは、落語家だった。中学を卒業したらおじいちゃんの弟子になるはずだったが、おじいちゃんは亡くなってしまった。

でも、幽霊になって、落語の練習に付き合ってくれる。新太郎は、本格的に落語家をめざす事を決意する。

『地球ものがたり インカの村に生きる』

関野 吉晴 著
ほるぷ出版

南米ペルーの山奥にある小さな村、ケロ。アンデス山脈の深い谷のなか、インカ帝国時代の暮らしをいまでも続けています。

ケロは、富士山よりも 500 メートルも高くて、野うさぎしかすまない場所。

山の下の方で食べ物を作って、上のほうで家畜を飼っています。

家も建てる場所によってくふうをしています。



『世界の果ての魔女学校』

石崎 洋司 作 平澤 朋子 絵
講談社

なにもかもうまくいかず、家出をしたアン。たどりついたのは、古い学校。恋人の過去が目につかび、悩み苦しむジゼル。古書店で、誰ともかわらずアルバイトしながら、「彼」を待つアリーシア。村のはじきもので「復讐」を企てようとするシボーン。

世界の果てにある学校は、どこにでもいそうな少女たちをりっぱな魔女にするための学校だった。魔女学校に迷い込んだ少女4人の行方は…？



『大地のランナー 自由へのマラソン』

ジェイムズ・リオードン 作 原田 勝 訳
鈴木出版



黒人であるサミュエル、通称サムの住む南アフリカは、白人の国で、黒人への差別が横行していた。

サムは、走るのが好きで速い。しかし、黒人であるために、自由に走ることさえ許されなかった。いろいろな苦勞とまわりからの協力で、夢だったオリンピックのスタート地点にたった。

『すごいぞ！「しんかい6500」 地球の中の宇宙、深海を探る』

山本 省三 著 友永 たろ 絵
くもん出版



海のずっと深い場所にある深海。

そこには、鉄のうろこをまとう貝がいたり、地震でできた海底の裂け目があったり、人間の知らない世界で満ちあふれている。

海底6千メートルの世界を覗くことができる世界一の潜水船「しんかい6500」が、どのようにしてできたか、あなたの目で確かめて下さい。

『知ろう！再生可能エネルギー』

馬上 文司 著 倉阪 秀史 監修
少年写真新聞社

再生可能エネルギーとは、風力や水力を利用して生み出されるエネルギーです。私達は、家電・自動車など、毎日とっても大きなエネルギーを使って生活しています。

私達が生活していくうえで、どのようにエネルギーが使われ、これからどうしていくべきかを考えましょう。



『クリスマスのりんご クリスマスをめぐる九つのお話』

ルース・ソーヤー アリソン・アトリーほか 文
上條 由美子 編・訳 たかお ゆうこ 絵
福音館書店

ドイツの町に、ヘルマンという貧しい時計作りの老人がいました。クリスマスに神さまにささげる贈りものの時計を何年もかけて、作りあげました。しかし、クリスマスのまえの日、困って泣いている女の子のため、その時計を売ってしまいます。ヘルマンは、しかたなく、りんごをひとつ神さまにささげることにします。

『クリスマスのりんご』の他、ほのぼのとした八つのお話が入っています。



『リックとさまよえる幽霊たち』

エヴァ・イボットソン 著 三辺 律子 訳
偕成社



家族は不気味で恐ろしい立派な幽霊だが、末っ子のハンフリーはかわいらしいピンク色の物質でできていて、幽霊としては落ちこぼれ。でも、自分もりっぱな幽霊になれると信じて幸せに暮らしていた。

ところが住んでいる古城が建てかえられることになり、みんなで新しい^{すみか}棲家を求めて旅に出る。途中で人間の少年リックと出会い…。

『カプリの王さま』

ジャネット・ウィンターソン 文 ジェーン・レイ 絵
柳原 由紀 Ayu o 訳
小学館



カプリの王さまは、ごちそうがだいすきで、自分のことばかり考えていました。

ある日、大あらしがやってきて カプリにあったものはすべて 入り江のむこうのナポリの町にとばされてしまいました。

まずしくなった王さまは、ひとりぼっちになってしまいました。

そして、たべものがなくなったある日、ナポリの町へ行ってみると…。

『こおり』

前野 紀一 文 齊藤 俊行 絵
福音館書店

氷をじっくり見たことがありますか？
氷を水にうかべてみると、氷の中がよく見えます。

氷の中は小さいあわがはいっていたり、白くなったりしています。

透明な氷や、色のついた氷は作れるでしょうか？

身近な氷のふしぎをさぐります。



『希望への扉 リロダ』

渡辺 有理子 作 小淵 もも 絵
アリス館

マナポはミャンマーのカレン族の子。

内乱のせいで毎日不安な生活をしていましたが、村が襲われてマナポは難民キャンプへ避難し、そこで安心した生活を取り戻す。

ある日、キャンプ場にリロダ（図書館）をつくることになり、マナポは図書館員になる。

赤ちゃんからお年寄りまで気軽に利用できるリロダを目指し、マナポは一生懸命奮闘する。

